

聖書日課 『からし種』 2024.9.15－9.22

<p>9月15日 (日) エレミヤ 34章</p>	<p>「わたしはお前たちに解放を宣言する、と主は言われる。それは剣、疫病、飢饉に渡す解放である」(17節)。イスラエルの民は主のみ言葉通りに6年間仕えた同胞の奴隷を解放した。そこで、主はバビロンの軍隊をエルサレムから離れさせた。しかし、時が好転すると民は再び奴隷を働かせた。主の教えに反すると手痛い目に遭うことになる。</p>
<p>16日 (月) エレミヤ 35章</p>	<p>「ところがお前たちは、わたしが繰り返し語り続けてきたのに聞き従おうとしなかった」(14節)。ここに出てくるレカブ人とは、イスラエルが荒野を旅した時導いた人たち。彼らは父祖ヨナダブの教えを忠実に守り、ぶどう酒を飲まなかった。しかしイスラエルの民は、何度も主の言葉を無視した。私たちは主を見つめ神の言葉を聞こう。</p>
<p>17日 (火) エレミヤ 36章</p>	<p>「ユダの家は、わたしがくだそうと考えているすべての災いを聞いて、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない」(3節)。エレミヤは主の言葉をバルクに命じて巻物に記させ、バルクは神殿で全ての人々に読み聞かせた。ユダの役人たちはおののき、ヨヤキム王に知らせたが、王は巻物を焼いてしまった。主の期待を王がなきものにした。心が痛む。</p>
<p>18日 (水) エレミヤ 37章</p>	<p>「ゼデキヤ王は、エレミヤを監視の庭に拘留しておくよう命じ、パン屋街から毎日パンを一つ届けさせた」(21節)。エレミヤは厳しい預言をしたがために、役人たちや民から嫌われて命すら狙われた。しかし神はゼデキヤ王という一番の実力者を用いて、エレミヤを養わせた。私たちが神に生きようとす時、神は必要に応じて養ってくださる。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.9.15－9.22

<p>19日 (木)</p> <p>エレミヤ 38章</p>	<p>「どうか、わたしが申し上げる主の声に聞き従ってください」(20節)。エレミヤは恐れているゼデキヤ王にこの言葉を告げた。主の声に聞き従うだけだと。一方、ゼデキヤ王から知恵を授けられたエレミヤは、自分の命を狙う者たちの手から逃れることができた。神の言葉を聞くことは命を得る道なのだということを覚えよう。</p>
<p>20日 (金)</p> <p>エレミヤ 39章</p>	<p>「ゼデキヤの第十一年四月九日になって、都の一角が破られた」(2節)。都の一角が破られたとある。ついに主の言葉が成就してしまう。「それは災いであって、幸いではない。」という、恐ろしいことが現実となる。エレミヤを通して何度も語られてきた主の言葉を人々が無視した結果である。私たちは日々聖書を通して主の言葉を聞いていこう。</p>
<p>21日 (土)</p> <p>エレミヤ 40章</p>	<p>「あなたが良しと思い、正しいとすところへ行くがよい」(4節)。バビロンの親衛隊の長ネブザルアダンがエレミヤに食料の割り当てを与えて釈放した。ネブザルアダンはエレミヤに今後の活動の判断を任せた。エレミヤはゲダルヤのもとに身を寄せ、国に残った人々と共にとどまった。エレミヤの判断は主の導きだったと思う。</p>
<p>22日 (日)</p> <p>エレミヤ 41章</p>	<p>「イシュマエルに捉えられていた人々は皆、カレアの子ヨハナンと軍の長たちの姿を見て歓喜した」(13節)。エルサレムが陥落し、バビロンが立てた総督ゲダルヤが暗殺される混乱の中で人々はヨハナンたちに希望を抱いた。しかし人間的な希望と神が与える希望の違いが示されていく。主日の今日、神が指し示される希望を見いだしていく信仰をいただきたい。</p>